

今回は【現代文の勉強法】を紹介します。

はじめに

「現代文は、現代の日本語なので何とかなる」と、勉強を後回しにする人がいます。しかし、何とかなるレベルならば入試科目として課す必要はないはず。勉強しないと何とかならないのが「現代文」なのです。「人間の心情などは複雑なのだから答えは複数あり得る」と考えられがちですが、必ず答えが一つに絞られるように問題は作られています。答えに到達する論理力、洞察力が問われるのです。現代文は「あなたがどう思うか」ではなく、「書いてあることを正確に読み取れるか」を問うています。



1 学習方法

3年の夏休みで現代文の力を伸ばすには、読解のための原則と論理構造の理解を重視しながら問題を読み解いていくことが重要です。学習方法のポイントを以下に挙げておきます。

(1) 漫然と文章を読むのではなく、書き込みながら読む。

印や傍線をつけながら読むことによって論理構造を可視化する。⇒詳細は2の(3)

(2) 実用的な文章では、因果関係を踏まえているか、客観的な説明になっているか見極める。

複数の情報や資料について、「何について」「どういうことを言っているか」を意識して読む。

(3) 自己採点では、なぜその解答になるのか、なぜ不正解になるのかを明確にする。

正解か不正解かだけに注目して終わらせない。解説をよく読み、どのように考えれば正解にたどり着けるのかをシミュレートする。選択肢のある問題については、不正解の選択肢のどの部分が間違っているのかも確認する。

2 現代文の問題を解くに当たって

(1) 現代文は時間との戦い

模試等の経験からも分かるように現代文は時間との戦いでもあります。いかに早く正確に読み解いていくかが鍵です。その時よく迷うのが、全体を読んでから解くか、読みながら解くかです。どちらにも、それぞれ一長一短ありますが、近年増加している複数テキストの出題、全体的な本文の内容合致や文章の特徴についての設問に対応するためにも、一度大まかに全体を読んで話題や筆者の主張を掴んでから設問の箇所を読み解くことをお勧めします。傍線部の内容が後述部分で具体的に言い換えられている場合なども気づきやすいはず。但し、漢字は読みながら解くのが基本です。

(2) 現代文読解のための大原則

原則① すべての根拠は文章中にある。

原則② 筆者の主張は形を変えて繰り返される。

原則③ とくに傍線・空所はその前後を注意深く読む。

(3) 論理構造を理解するための書き込みポイント

書き込みながら読み、論理構造を可視化することによって何度も読み返す必要がなくなります。どのようなマークや記号を付けるかは、自分でわかりやすいものを使いましょう。

以下にポイント(①～⑧)を記しておきます。

- ① 前文を受け、同じ価値観で次へつながる接続語(順接・並列・添加)
「だから」「したがって」「それゆえ」「また」「しかも」「さらに」「そのうえ」など
- ② 前文とは反対の内容、あるいは価値観が逆転する接続語(逆接) ★直後に注目!
「しかし」「だが」「けれども」など
- ③ 重要な内容を要約・言い換えている接続語 ★抽象と具体の言い換えに注目!
「つまり」「すなわち」「言い換えれば」「要するに」「いわば」など
- ④ 二つの重要な内容の対比関係を表す接続語
「それに対して」「一方で」「他方で」など ★二項対立に注目!
- ⑤ 重要構文を示す接続語や文末表現
A「ではなく構文」＝「ではなく」「だけでなく」「ではない」など ★直後に注意!
B「Xとは～構文」＝「とは～」「というのは～」「こそ～」など ★筆者なりの定義を確認!
C「比較」＝「むしろ」「～より」など ★その後に筆者の主張!
D「譲歩」＝「たしかに」「もちろん」「なるほど」「むしろ」など
E「例示」＝「たとえば」など
- ⑥ 指示語 ★指し示す内容を捉える。(特に傍線部の前後の指示語は大切)
「これ」「それ」「この」「その」「このような」「そのような」「こうした」「そうした」など
- ⑦ くり返し登場するキーワード ★筆者の主張や、その主張と対立する要素が短くまとめられている!
- ⑧ 筆者の主張や、それとは反対の一般論を示すキーセンテンス
※上記⑦・⑧：筆者が肯定的にとらえている事柄にはプラスのマーク、否定的にとらえている事柄にはマイナスのマークをつけるなど、一目でわかるような工夫をしてみよう!

この手法は定番な
のです。ちょうど蛍
雪時代4月号P189
に実践例が載って
いるので参考にし
てください。

3 その他の読解に必要な知識

(1) 語彙力

- ・漢字、読み・書き・意味をワンセットで覚え、抽象概念を表す語句、哲学用語、カタカナ語、近代特有の語句、慣用句など現代文重要語の意味を正確に理解すること。(『上級入試漢字』『現代文単語』を活用するとよい)
- ・語彙力(ことばの力)は読解力の基盤である。国語のみならず全教科で読解力が問われていることを忘れてはならない。それは、単に入試だけの問題ではなく、大学入学後の学問を支えるのが「ことばの力」を土台とした読解力だということを意味しているのである。ゆめゆめ侮ることなかれ。

(2) 時代背景と文学史

- ・明治・大正・昭和がどのような時代であったのか、人々の価値観はどうであったのかを知る。
- ・江戸時代の戯作文学 → 明治初期(写実主義・擬古典主義) → 明治中期(浪漫主義) → 明治末～大正(自然主義・反自然主義) → 昭和(プロレタリア文学・芸術派) → 戦争下各時期の文学の傾向や代表的な作家と作品を覚える。

(3) その他

- ・便覧p194～221(「近現代の評論」「分野別近現代の評論」「評論50」)を読み、入試頻出評論の傾向を理解しておく。

おわりに

現代文の問題には必ず出題者の意図があります。それぞれの設問で作成者が何を答えとして要求しているのかをしっかりと読み取ることが肝要です。また、設問の指示を丁寧に確認することも大切です。設定された条件に必ず合うように答えましょう。記述問題では文末表現(「～こと。」「～から。」など)にも注意して解答してください。

どうしても読むスピードの速さが求められるので、日頃から教科書の文章や新聞の社説などを自力で読むように心がけ、速読力を鍛えましょう。読み慣れることがスピードアップにつながります。

《オープンキャンパスについて》

『対面式オープンキャンパス(事前予約のところが多い)』は、定員になり次第予約終了となるので、大学公式HP等で調べて申し込みましょう。